

食料や物資はふだんから備蓄していないと

柏崎市 30代 女性

ちょうどコンビニに停めて、車のサイドブレーキをかけた瞬間に揺れ始めて、そのうちジェットコースターに乗っているような感じになりました。

直後でしたので、運良くコンビニに寄れて水とかおにぎりとかパンとか、当面必要な食料を買うことができました。コンビニは、お酒とかが割れて床が水浸しで、お酒の臭いが混じったすごい臭いがしました。

家に帰ったら既に停電していました。で、「ああ、ポリタンクを買ってくるのを忘れたね」と言って、慌ててまた買いに出たんですけど、「もう全部売り切れました」と言われてしまいました。

もう水もすぐにとまっちゃうような感じでしたから、ペットボトルの空いたのを一生懸命探して、買ってきた水と冷蔵庫にあったお茶とかで、復旧まで足りるのかなとすごく心配しました。

3年前の新潟県中越地震のときは水もガスも止まらなかったのでも、「何とかなるだろう」と、容器とかも全然そろえていなかったんですね。それが、ガスも、水道も、電気も全部とまってしまったので、「私たちはどうなるんだろう」という感じでした。

やはり、食料や必要な容器などは、ふだんから備蓄しておかないといけないなと思いました。



おとなりの井戸水もらえて大助かり

トイレの「ジャー」は、バケツ3杯分

柏崎市 30代 男性

水が出ないのが一番こまりましたね。うちは田舎なので家に井戸があって、これは助かったなと思ったんですけど、地震で井戸水のほうのパイプがやられてしまって、井戸水をくみ出すことができませんでした。で、何日間か、水道が出るまで、おとなりから井戸水をもらってしのぎました。

でも、いつも何となくやっているトイレの「ジャー」は、バケツ3杯も運ばなきゃだめなんですよ。

いつも洗濯に使う風呂の残り湯は、大きな揺れで、ガシャンガシャンと台所まで飛び散っていて、もう3分の1ぐらいしかありませんでした。

何が困ると言ったら、やっぱりトイレの水が一番で、おとなりから井戸の水をいただいたのは、すごくありがたかったです。



非常時に必要なものは、きっちり整理

杉並区 70代 女性

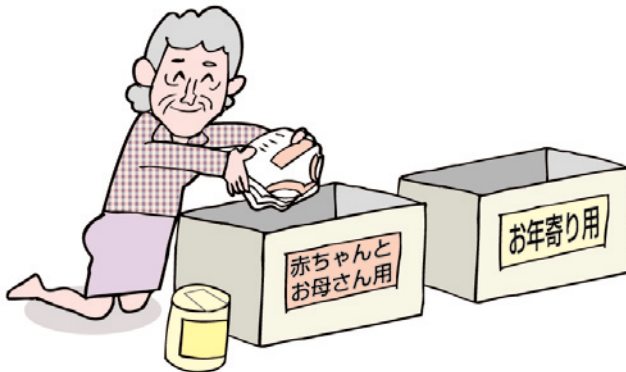
私はいつも緊急用の物資を地下室に置いています。今回の大雨で、地下室が水浸しになりましたが、幸い上の方の棚に置いていたので、難を免れました。

一口に非常時に備えると言っても、使う人によって必要なものが異なります。私は、「赤ちゃん・お母さん用」、「お年寄り用」というように区別して箱に入れ、中味が分かるように一覧表を箱の上に貼っています。

お年寄り特有のものとしては、入れ歯・入れ歯入れ、いたみ止め、虫めがねなど。赤ちゃん・お母さん用には、おむつ、防災ずきん、ウェットティッシュ等々55種類ぐらいあります。赤ちゃん用の非常食は賞味期限が短いのが困りものです。

あんまり準備がいいというので、春と秋の防災の日のイベントでは、消防署の人に頼まれてそれらを展示していますが、「参考になるからリストを下さい」と言ってくれる人もいます。

最初は、確かに大変でしたが、一度揃えてしまえば次の年からは賞味期限のせまっているものは使ってしまう、新しいものに交換すればいいわけです。「何が必要だろう」と考えながら箱につめるのも案外楽しいものですよ。



帰宅訓練のおかげで足に自信

杉並区 70代 女性

何でも体験できるのはいいチャンスだからと、帰宅困難者の訓練に毎年参加しています。

先日、電車に乗っている時に、人身事故で電車がストップしてしまいましたが、帰宅訓練で新宿から自宅まで歩いたことがあるという自信があったので、さっさと一番に歩いて帰ったんです。

訓練で体験していなかったら、そうはいかなかったと思います。途中ではぐれてしまった主人は、新宿へ戻って電車を待たらしいんですけど、私より1時間ぐらい遅れて帰ってきました。

ただ、私もまさかこんな状況になるとは思ってなくて、ヒールのある靴を履いていたから、かなりきつかったですね。若い人たちには、「会社のロッカーには必ず低い靴を置いておきなさい」って言いたいです。



水圧でドアが開かない

地下室のドアはいつでも開けておく

杉並区 60代 女性

うちもギリギリだったんですが、坂が窪地みたいになっているところの1階の方たちは、一晩腰までつかりっぱなしですから、もう悲劇的でしたね。床下、床上浸水でも、2階のある方は2階に行きました。

ご近所では、楽器の練習をしていたご主人が知らないうちに地下室に閉じ込められてしまいました。奥さんが外から押しても全然だめで、しょうがないからドアを壊すしかないかとかやっているうちに、水がどんどん増えてきてしまったんです。

水圧がすごくて、全然動けない。必死になってもがいているうちに、水が引いてきて助かったのですが、結局ドアのちょうつがいを壊したんです。道に水がたまって、救急車も入ってこれないから大騒ぎでした。

その方はいつも防音のために地下室のドアを閉めていたのですが、今回そういう経験をして、いつもドアは開けておかなきゃいけないんだということがわかったようです。



一日前プロジェクト みんなでやってみよう!

----- 簡単な手順を紹介します -----

まず、過去の自然災害(地震、水害)の中から対象を選ぶ

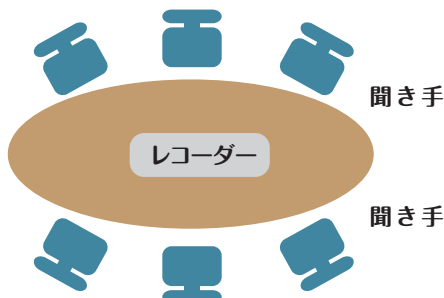
その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける

みんなが集う場所と時間を設定する

※所要時間は2時間

なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、体験したり感じたことを話し合ってもらおう

※話し手は、2~4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける

テープ起しなどを基に、拾い出した部分を物語にする

※物語は、300~500字程度で、できるだけ切り口を残して編集

※物語の情景をあらわすイラストや写真等を添えると効果的

作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

気づき

共感

反省

「一日前プロジェクト」とは、地震や水害などの自然災害で被災した方や災害対応の経験をもつみなさまにお集りいただいて、

- 被災前後の行動
- 体験を通じて上手くいったと思うこと、失敗したと思うこと
- もう一度災害が発生したならば、次はどのように行動したいか
- そのために日頃から何を準備しておけばよかったか

といった本音の話をお聞かせいただき、これらの話から導き出されるさまざまな教訓や身につまされる体験をショートストーリー(エピソード)に取りまとめるという活動です。

こうして取りまとめたエピソードを広く活用・普及させることで、地域のコミュニティや国民一人ひとりに、防災・減災への関心や意識を高めていただくことを目的としています。

ここで紹介する物語は、ほんの一部です。一日前プロジェクトから生まれた物語は、内閣府の「災害被害を軽減する国民運動のページ」<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/ichinitimae/index.html>に掲載されています。ぜひ、アクセスしてみてください!きっと、あなたの心を動かす物語が見つかるはずです。

■一日前プロジェクトの物語・イラストは、非営利の目的であれば、広報誌やパンフレットなどで自由にお使いいただけます。「災害被害を軽減する国民運動のページ」(<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/>)からダウンロードしてください。



発行 内閣府(防災担当)

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1(中央合同庁舎8号館)

TEL 03-5253-2111 URL <https://www.bousai.go.jp>